

令和6年度(第45回)原子爆弾被爆者指定医療機関等医師研究会

概 要

1. 開催方法 オンデマンド(YouTube)配信
2. 配信期間 令和7年2月15日(土)～令和7年3月14日(金)
3. 申込方法 下記の Google フォームまたは QR コードからお申し込みください。
※都道府県名、医療機関名、職名、氏名及びメールアドレスを入力してください。
4. 申込期限 令和7年2月28日(金)まで随時
5. 講師並びに演題

内 容	時 間
講演Ⅰ 原子爆弾被爆者援護行政について 講師：厚生労働省健康・生活衛生局総務課 課長補佐 九十九 悠太	30 分
講演Ⅱ 原爆放射線の健康影響について ～長期にわたる被爆者の健診調査から～ 講師：公益財団法人放射線影響研究所 臨床研究部 部長 飛田 あゆみ	30～ 45分
講演Ⅲ 甲状腺癌と遺伝子異常 講師：長崎大学原爆後障害医療研究所 放射線災害医療研究分野 教授 光武 範吏	30～ 45分
講演Ⅳ 核医学（放射性同位元素の医療利用）の近年の進歩 講師：長崎大学原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授 工藤 崇	30～ 45分

※講演時間は変更になる場合がございます。

【Google フォーム URL】

<https://forms.gle/r6RxCjkebW2xsycQ6>

※URL または QR コードより登録フォームへ
アクセスしてください。



講演要旨

○演題Ⅰ:「原子爆弾被爆者援護行政について」

厚生労働省健康局総務課 課長補佐 九十九 悠太氏

○演題Ⅱ:「原爆放射線の健康影響について～長期にわたる被爆者の健診調査から～」

公益財団法人放射線影響研究所 臨床研究部 部長 飛田 あゆみ氏

放射線影響研究所は前身の原爆傷害調査委員会(ABCC)が設立された1947年より原爆被爆者および被爆二世の追跡調査を行っている日米共同研究機関である。

被爆者の健康診断調査は1958年より、被爆二世の健康診断調査は2002年より行われており、健康診断だけでなく同意を得た上で血液や尿の保管を行っている。

本演題では、放影研の調査集団の成り立ち、疫学調査および臨床調査の方法、および長期にわたる調査からわかった原爆放射線が健康におよぼす影響について解説する。

○演題Ⅲ:「原爆症と放射線関連甲状腺癌」

長崎大学原爆後障害医療研究所 放射線災害医療研究分野 教授 光武 範史氏

近年、遺伝子解析研究の進歩により、甲状腺癌の様々な臨床病理学的指標と遺伝子異常の関連が明らかになってきた。本演題では、最もよく見られ、そして放射線被ばくでも生じる組織型である甲状腺乳頭癌を中心に、遺伝子異常と癌の悪性度・予後との関連について、私達の研究成果を紹介したい。また、乳頭癌の遺伝子異常は癌の誘因とも関連があり、チオルノービリ原発や福島原発事故後に発見された甲状腺癌に関しても、遺伝子異常について簡単に紹介する。

○演題Ⅳ:「核医学(放射性同位元素の医療利用)の近年の進歩」

長崎大学原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授 工藤 崇氏

放射性同位元素は、様々な医薬品の標識に用いられ、疾患の画像診断や治療に役立っている。そのような医療の領域を「核医学」と呼ぶ。

×線診断と異なり、医薬品の生理学的・薬理的働きを利用するため、生体内の機能を画像化したり、疾患特異的な治療を行うことが出来る。循環器疾患や、神経、内分泌など様々な目的で利用されているが、近年、心アミロイドーシスの診断、アルツハイマー病治療薬の適応判断、そして腫瘍特異的な治療といったいくつかのトピックが話題になっている。

今回の講演では、核医学の基本的な概念を説明するとともに、これらのトピックを紹介し、また本邦における核医学の特殊な立場について解説する。